

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 22 日現在

機関番号：28001

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370109

研究課題名(和文)民謡現地録音資料データベース化の方法の研究 沖縄民謡を中心に

研究課題名(英文)A Study on the method for digitizing the field-recordings: on the Okinawan folk song

研究代表者

金城 厚 (KANESHIRO, Atsumi)

沖縄県立芸術大学・音楽学部・教授

研究者番号：50183273

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：1970年代から80年代にかけて、東京芸術大学が収集した沖縄民謡調査資料(90分カセットテープで1,300巻)をデジタル化し、公開・試聴可能な状態に整理した。

テープ単体ごとの第一次メタデータ(表題、収録年月日、収録場所、演唱の地域属性、演唱者名)について、一覧表を作成し、併せて曲ごとに表示できるようにした。

また、第二次メタデータ(メディア内部の目次、収録曲名、所要時間等)については、カセットの外面に手書きされている録音内容をそのまま画像ファイルとして表示し、付随する調査ノートもPDFで表示した。沖縄県立芸術大学において、公開している。

研究成果の概要(英文)：We were digitizing the investigation materials which Tokyo National University of Fine Arts and Music has collected through the 1970s and 1980s, and prepared for any researcher to audition that. We have created a list of the primary meta-data (title, date, location, region, singer's name) of each cassette-tape, in addition, displayed it in each song.

For the secondary meta-data (the table of contents, song title, time duration), recording what is handwritten on the outer surface of the cassette was displayed as an image file. Accompanying research note was also displayed in PDF. These have been published in the Okinawa Prefectural University of the Arts.

研究分野：民族音楽学

キーワード：沖縄音楽 民謡 音楽データベース アーカイブ

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 民族音楽学では、伝統的な民謡を通して日本人の民族性を研究し、併せて後世に残すために、フィールドワークの現場で録音をしてきた。本研究が扱う調査録音資料とは、民族音楽学のフィールドワークの現場で、学術研究に適した仕様で収録した録音の資料のことである。

こうした現地調査録音は、1970年代に、操作が簡便なカセットテープが普及したおかげで急速に増えた。その一方で、経済の高度成長に伴う地方農村の過疎化などの社会変化により、民謡の伝承は急速に失われたり、舞台化して変質したりしたので、今や、昔日の録音は貴重な研究遺産となり、かけがえのない「庶民文化遺産」となっている。

(2) ところが、収録した学者による研究が終わった録音メディアの多くは研究室のロッカーに仕舞い込まれたまま、後進の研究者が録音を耳にすることは少ない。いわば死蔵状態にある資料が多い。辛うじて幾つかの研究機関がこれをデータベース化して保存をはかるとともに、公開可能な状態にしている。その場合でも、実際には一般の人々が手軽にアクセスできる状態にはない。

近年、地元にあったはずの民謡や民俗芸能を復活させたいと試みる人々が増えてきているが、その一方で、古い録音が研究機関等に残されていることを知らずに、復活に苦心していたという事例もある。これらは、研究者や研究機関が録音資料を内部に保管するだけで、文化の遺産として社会に還元していないことによる。

したがって、調査録音資料は研究者のための研究情報として流通させるべきであることはもちろんだが、一般の人々、とりわけ地域の民謡伝承に関わっている人々も手軽にアクセスできるような情報発信のあり方を作り出さねばならない。

## 2. 研究の目的

本研究企画は、東京芸術大学が1970年代から80年代にかけて収集した沖縄民謡調査資料(90分カセットテープで1,300巻)をデジタル化して公開し、研究と伝承の発展に資することを目的とする。

デジタル情報として音楽情報や研究情報を公開するには、第1に、研究と伝承に資するためには、研究者や一般伝承者にとってアクセスしやすい環境が必要である。第2に、検索の効率化の観点から、メタデータの取り扱い方について、規格のような書式を作る必要がある。第3に、著作権・許諾等の諸問題をクリアする必要がある。これらの課題への対処を行ったうえで、最終的に、アーカイブとして利用される状態を実現したい。

## 3. 研究の方法

第1に、音楽データに伴う「フィールド・ノート」等、諸々の文字情報についてもデジタル化を進めた。これにより、音楽データそのものの研究だけでなく、テキストとコンテキストの全体像を研究しやすくする効果がある。そこで、作業補助者と協議を重ねながら、文字資料のデジタル化に取り組んだ。

第2に、アーカイブ化に向けて、メタデータのあり方を研究した。いくつかの民族音楽関係アーカイブの先行事例を視察・調査し、関係者への聞き取り等を通じて、問題点の洗い出しを行った。

第3に、アーカイブ化する際の技術的問題点について検討した。研究補助者とともに、情報工学分野の識者から指導を受け、ウェブサイトの設計に取り組んだ。

第4に、著作権に伴う許諾の要不要に関する法的問題について、日本民謡研究に関するアーカイブを有する博物館等の実情を調査した。

#### 4. 研究成果

(1) 本資料には、録音単位(カセットテープ)ごとに、取材者が現場で記入した「フィールド・ノート」が残されている。このノートの内容は、音楽のテキストとコンテキストの全体像を研究する上で重要な資料であるが、多くが鉛筆書きであるので、これも保存措置を講じる必要がある。そこで、これら手書きの状態のノートを画像としてPDF化する作業を行った。残念ながら、期間中に完遂出来なかったが、1970年代のノートはPDF化を完了した。80年代のノートについて、今後の作業としたい。

(2) アーカイブ化、すなわち公開が重要であるが、本研究においては「メタデータの階層化」という考え方を提唱するに至った。すなわち、第一次メタデータ、第二次メタデータ、音源データおよび文字情報データの3つのレベルに整理して公開の扱い方を区別する。

第一次メタデータとは、録音資料のメディア単体に関するメタデータである。ここには録音の日時、場所、人(演唱者・集団、解説者等)、内容の表題およびその他の若干の情報が含まれる。

第二次メタデータとは、個々のメディアの内部に録音されている複数の楽曲のそれぞれについての情報である。目次情報にあたる。これにはメディアの中に録音されている曲名と、それに関する時、場所、人、および所要時間や録音状態に関する情報が含まれる。また、解説やインタビューの場合は、主要な話題と、それに関する時、場所、人、および所要時間等である。

第二次メタデータは、デジタル・ファイルの中にシーケンシャルな状態にあるから、自由にアクセスするには、予め編集しておく必要がある。しかし、これには録音内容に関する専門的な知識と膨大な作業時間を要する

ことがわかったので、より平易で実用的な方式を開発した。この情報は、原メディアではカセット・ケースの外面に手書きで記入されているので、これをそのままjpgファイルに写し取り、これを第二次メタデータとして、第一次メタデータにリンク、または貼り付けることとした。これは作業時間が格段に少ないので、簡便なアーカイブ化の手段として普及させて行きたい。

音源データおよび文字情報データは、資料の本体である。内容は、民謡の演唱および関係者へのインタビュー録音、また、これらに関するフィールド・ノートの内容である。

(3) 本研究の過程で、データベースの公開にあたって法律的な問題もあることが認識された。まず、歌ってくれた伝承者は、当該録音を研究の用に供すること、伝承のために役立てることに同意して演唱や証言を寄せてくれたのだが、ウェブによって広く世界中に配信することまでは理解していたとは考えにくい。不用意な公開は、商業利用されるおそれもある。さらに、フィールドワークで収集した録音には、インフォーマントの個人情報も語られており、保護・配慮すべき部分も少なくない。

本研究により、諸事例を調査した結果、音楽系アーカイブのなかには、「全面的ウェブ公開」「許可された者のみウェブ利用」「来館利用」などのカテゴリを設けている例があり、これを元に適切な契約条件などを定めた公開制度を設計すべきとの結論を得た。

具体的には、第一次メタデータについてはウェブ上でも公開する。これにより、録音情報の存在が社会に広く認知され、研究にも伝承にも大きく資すると考えられる。次いで、第二次メタデータについても、できるだけウェブ公開を目指すべきである。ただし、デジタル化には時間や資金の両面で困難が大きいため、前期のような簡略な目次の写真等の

公開が現実的手法として推奨されよう。第三次の音源データ、およびフィールド・ノートについては、個人情報を含むので、ウェブ公開にはなじまない。来館利用のような方法であるべきである。

さらには、来館利用時における研究用コピーの問題も慎重にしなければならない。しかし、契約条件の具体化にまでは至らなかったもので、今後の課題としたい。

(4) アーカイブの実現については、研究室内においての利用はできるようになった。4テラバイトの大規模ハードディスクにすべての情報を格納したが、ハードディスクは災害に弱いので、文化財保護の観点から、研究代表者(金城)の研究室(音楽学部内)と、研究分担者(久万田)の研究室(附属研究所)に同一のコピーを作成して設置した。外部公開については、大学の組織的理解が必要であるので、数ヶ月を要する見込みである。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

久万田晋、近現代における沖縄の民俗音楽・芸能の変遷過程 エイサーを事例として、琉球大学国際沖縄学研究所編『現代グローバル社会における自律的島嶼社会モデルの構築 島嶼地域研究・教育の拠点形成』査読無、2016、207-224

金城厚、民謡研究と伝承のための録音資料アーカイブの展望、『人文科学とコンピュータシンポジウム論文集 じんもんこんの新たな役割～知の創成を目指す文理融合のこれから～』査読有、2巻、2015、199-202

久万田晋、沖縄音楽を俯瞰する、多文化メディア市民研究会編『多文化社会の文化的市民権』査読無、2014、97-101

〔学会発表〕(計4件)

久万田晋、田辺尚雄と沖縄音楽、シンポジウム 沖縄の音楽と調査研究、2016.3.6、沖縄県立博物館・美術館(沖縄県那覇市)

金城厚・久万田晋、民謡現地録音資料アーカイブの展望、日本民俗音楽学会第28回東京大会、2014.12.24、東京音楽大学(東京都豊島区)

久万田晋、沖縄の民俗芸能の担い手と学校、文化遺産の復興に向けたミュージアムの活用、2014.11.1、国立民族学博物館(大阪府吹田市)

金城厚、かぎやで風節・花風節・稲まづん節の放漫加花的関係、沖縄文化協会第15回研究発表会、2014.7.20、琉球大学(沖縄県西原町)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

金城厚(KANESHIRO, Atsumi)  
沖縄県立芸術大学・音楽学部・教授  
研究者番号: 50183273

### (2) 研究分担者

久万田晋(KUMADA, Susumu)  
沖縄県立芸術大学・附属研究所・教授  
研究者番号: 30215024

### (3) 連携研究者